

伯耆国「大山開山1300年祭」特別企画／平成30年度米子市美術館特別共催展

「大山山麓の至宝」～「大山」ゆかりの刀を中心に～

伯耆国「大山開山1300年祭」実行委員会
一般財団法人米子市文化財団 米子市美術館

- 砂鉄の産地でもあった大山山麓には古くからたたら製鉄の文化が生まれ、平安時代には反りのある日本刀では最古級の名匠とされる刀工・伯耆安綱を輩出しました。
- 伯耆国「大山開山1300年祭」での「大山」の恵みを感じるプロジェクトでは、「日本刀」「たたら」をテーマに大山の歴史・文化の発信に取り組んでいるところです。
- 「大山山麓の至宝」では、以上のような、伯耆国圏域の刀剣文化を背景とした、大山ゆかりの名刀の数々や大山山麓の重宝等を紹介します。
- この度の展覧会の中心となる刀剣については、「安綱」在銘の刀剣3作品、安綱作の可能性のある春日大社蔵の日本最古級の「古伯耆」など、非常に魅力ある内容となっています。
- あわせて、大山寺や大神山神社蔵の「大山の重宝」、「画僧嗒然」の作品等も展示します。

1. 背景

中国地方最高峰・大山は鳥取県西部、伯耆国の中央に位置し、周辺の因幡、出雲、美作などの国々からも遠望できる山岳である。『出雲国風土記』には「火神岳（大神岳）」とあり、古くから大智明権現（本地地蔵菩薩）が御座す山として信仰を集めてきた。

大山は養老2年（718）に開山と伝えられ、『大山寺縁起』では出雲の獵師が地蔵菩薩に導かれて出家し金蓮上人となり、南光院や中門院、西門院を開いたとしている。平安時代には大山北側に地蔵信仰を核とし、3院から構成される天台宗の大山一山が成立し、山岳修験の霊地として都にも知られる存在となった。こうした大山における歴史的展開は、大山寺や大神山神社の建造物、仏像、工芸品や歴史資料などからうかがい知ることができ、その多くが指定文化財となっている。

また、この地域では古くから、大山山麓で産出する砂鉄を使用し、鉄穴流しとたたら製鉄で鋼を生産していた。こうした背景のもと、平安時代には、反りのある日本刀では日本最古級の名匠として知られる刀工・伯耆安綱を輩出した。

本展は、大山開山1300年を機に、大山を中心に古代から現代へ連綿と続くこうした地域の歴史や文化の一端をひもといていくことによって、あらためて大山がもたらす恵みを知り、地域の良さを見直すものである。

2. 開催概要

- (1)会 期 平成30年7月 29 日(日)～8月26日(日) 水曜日休館
- (2)開館時間 午前10時から午後6時
- (3)場 所 米子市美術館
- (4)観覧料金 当日:一般800円／大学生400円 前売り、団体:一般600円／大学生300円
※10名以上の団体、障がいのある方(付き添い1名を含む)は前売り料金
※70歳以上の方は当日の100円割引 ※高校生以下無料
- (5)主 催 伯耆国「大山開山1300年祭」実行委員会・米子市・米子市教育委員会・一般財団法人米子市文化財団 米子市美術館
- (6)共 催 鳥取県・大山町・鳥取県教育委員会・鳥取県立博物館
- (7)主な展示内容 以下のとおり

1. 伯耆の刀匠

- 平安時代中期の伯耆国の刀匠である安綱と大山ゆかりの刀(重要文化財含む)を展示
- 「安綱」在銘3振に加えて、安綱作の可能性のある春日大社蔵の日本最古級の「古伯耆」も展示
- また、大神山神社蔵・東京国立博物館寄託の「短刀 銘 備州長船住兼光」及び「金熨斗付合口」(兼光の拵)(いずれも重要文化財)も里帰り展示

2. 大山の重宝

- 大山寺や大神山神社等所蔵の大山山麓の重宝(重要文化財含む)を展示
- 鳥取県中部地震で被害を受けた「銅造観世音菩薩立像」や「鉄製厨子」(いずれも重要文化財)等も展示

3. 画僧嗒然

- 大山寺圓流院で院主を務め、書画の研究もし、様々な作品を残した画僧嗒然の作品を展示

4. たたらと刀剣製作工程

- たたら製鉄関連資料や刀剣製作道具及び製作工程について関連資料やパネル等で紹介

3. 関連イベント

- 7月29日(日)時間調整中【米子市美術館】オープニングセレモニー
- 7月29日(日)14:00～【米子市立図書館】記念講演会(日本刀有識者)※要申込
- 8月 5日(日)13:30～【米子市立図書館】日本刀研師・鞘師実演(研師:森井偲訓氏、森井鐵太郎氏、
鞘師:森井敦央氏)※要申込
- 8月18日(土)14:00～【米子市美術館】ギャラリートーク(森井偲訓氏、米子市美術館・県立博物館学芸員)
- ※時間は現時点の予定です。